

パパも子どもも笑顔に！ 休息と体験の輪を広げよう

チーム10-2

上田、大木、倉持、松本、三好



プロジェクトメンバー紹介



上田

みんなで楽しくポップな
ソーシャルアクションを！



倉持

半径50メートルから
アクションを起こす！



三好

自分にもできることを
探していきたいです！



大木

走りながら考える！
まずは行動しようと思います



松本

小さくとも、何か一步を
踏み出せたらと思っています

- プロジェクトメンバー紹介
- 企画背景
- アクション
 - ①リサーチ
 - ②コンテンツ収集
 - ③アウトプット
- まとめ

- 私たちのチームは、しんぐるまざあず・ふぉーらむさんのお話を伺うなかで、「子育ては親だけがすべきもの、という考え方から脱するにはどうすればいいか？」という問を立て、ひとり親世帯にとって子育てを自己責任から解放し互いに頼れる関係や、「親ガチャ」など関係なく、子どもと大人が自由に触れ合える社会を実現するためにどうしたらいいか、と考える所から活動を開始しました。
- 具体的に、こういったペルソナの方を対象にアクションを起こしていくか、という話をする中で、各自「ひとり親」のペルソナを出したのですが、圧倒的にシングルマザーのケースが多く、また、シングルマザーの現状やサポートやコミュニティの話は良く耳にするものの、シングルファザーの話を耳にすることが少ない、という気付きを得ました。
- ひとり親世帯のうち父子家庭の割合は全体の15~16%と少ないが、**それ故に社会の中で課題として認識されにくく、当事者自身も声をあげにくい** という課題があるのでは？という考えから、シングルファザーを対象とすることにしました。





- 1人の困りごとを解決することができれば、それが結果的に他の方の役にも立つかもしれない、という考えから、今回は敢えて $n=1$ とし、三好さんのご友人のシングルファザーの悩みを解決する事を目標としました。
- 平日はお仕事があるため、週末はお子さんに付きっきりで一緒の時間を過ごしていらっしゃるシングルファザーからお話を伺うことから始めました。
- 「三好さんに聞かれなければ、考えもしなかった」というようなコメントも頂きながら、どいういう点が解決できれば、罪悪感なく、もう少しご自身の事を考えることができるのか。何度かヒアリングを実施し、今回は「お子さんの体験の輪や経験を広げることができる預け先を提案し、お父さんにも休息の時間を持ってもらうためのマップ作り」をアクションとすることにしました。



プロジェクトを進めるうえでの3ステップ



アクション ①リサーチ

母子家庭

119.5万世帯

3761世帯

今回は、従来デザインプロセスから除外されてきた少数派のシングルファザーを「リードユーザー」として上流から巻き込む「インクルーシブデザイン」の手法でリサーチを実施



父子家庭

14.9万世帯

393世帯



1世帯

今回ヒアリングさせていただいた、シングルファザーの方



Iさん

- 大阪にあるメーカー勤務
(基本は在宅勤務)
- 姫路市在住
- 3年前からシングルファザー
- 義理の母と3人暮らし
- 小学校2年生の男子
(本人の希望により学童には通わず)

ヒアリング内容

- 平日は、1人の時間は1時間もない。平日は諦めている。
- 休日は、基本的に2人で過ごす。「公園」→「自宅」→「近所のイオン」のルーティンワーク。近くには児童館がない。
- 数ヶ月に1回、お友達と遊ぶこともある。
- シングルファザーのコミュニティなどには参加はしていない。
- 他人に預けるということを考えたこともなかった。
- 預ける場所が姫路にどれくらいあるかはわからない。
- 情報収集するための決まった媒体はない。地域の回覧板や学校のお手紙はみる。
- 姫路市のホームページや子育てに関する冊子を見たことがない。

アクション ①リサーチ

チームの仮説

- 積極的にお母さんたちが集まるコミュニティに参加すればよいのでは？



ヒアリングを受けて 分かったこと

- お母さんコミュニティに参加することは難しい。

- 公園などでイベントを行い、お子さんを預かるようなイベントをしたらよいのでは？



- 企業名を出すでもなく、行政の人でもない、身元がよくわからない人には預けたくない。また、預けることに関して罪悪感を感じるので、本人が行ってよかったと思えるようなものにいかせたい。
- そもそも、子どもを預けられるような施設に関して把握できていない。

アクション ①リサーチ

Vision : なぜ、それをやるのか？

シングルファザーの困りごとが見えない、言語化されていない、シングルマザーに比べて問題化されていないこと自体が問題

Needs : 誰の、どんなお困りごとにこたえるのか？

- 平日は仕事、休日は子育てと自分一人の時間が取れない
- 子育てのネットワークもない
- 子どもの遊び場というようなキーワードでネットで探してはいたが、十分な情報がなく子どもの体験の範囲を拡げられずにいた

Solution : どうやって、解決するのか？

子どもを預けられる施設を中心に、姫路市界隈の「おすすめ施設・サービス」
Google My Map作成にして、「休息」&「自分の時間」を提供する

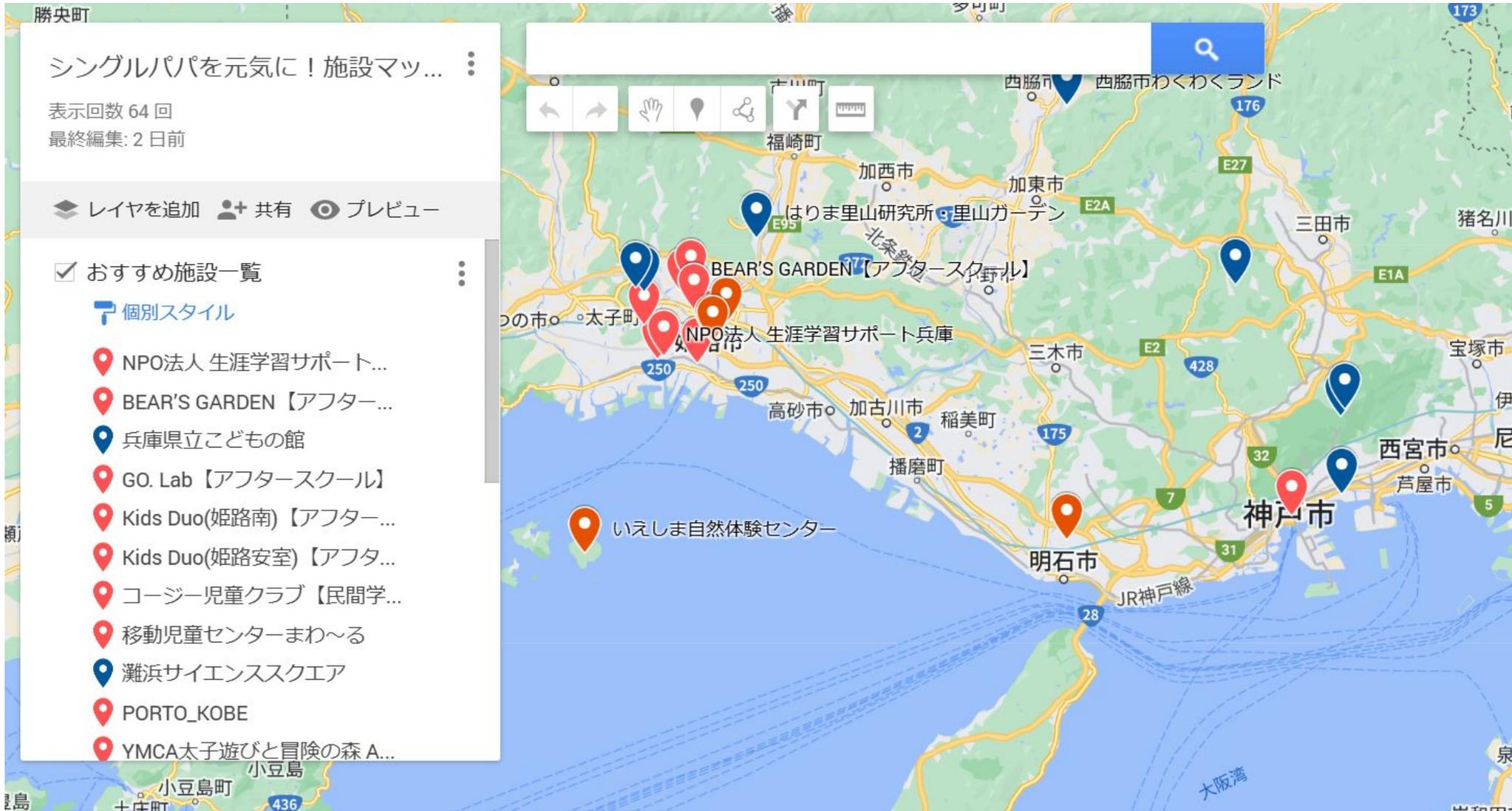
- 複数人で共同編集する（「他人に頼って子育てしてよい」というメッセージ）
- 地図の活用を通じて、子育てのネットワークを形成していただく

アクション ②コンテンツ収集

施設・サービスを調べる上での着眼点

- 週末 ひとり親 体験 週末 パパゆっくり といったキーワードで検索
- 定期的・継続的な営業実態があることを電話等で確認
- 主催者、事業者から情報の提示など、積極性を感じるかどうかを確認
- 数は少ないが、ひとり親応援料金、応援企画、思いをもった事業者を探す
- ともしれば未就学児中心のサービスが多い中で、小2以上が対象かどうか確認
- 子どもだけで預けられるものを優先しつつも、親の同伴が必要なものもいれておく
(少しずつ手が離れるということもあるので)
- 姫路市内で探すが、50~60kmは車で移動しているということなので追加で範囲を拡げて探してみた
- 平日の時間の使い方に工夫や変化が起こるかもしれないので、平日中心のサービスも若干加えておいた
- お子さんはどちらかというインドア派ということであったが、自然体験みたいなものと工芸・科学みたいなジャンルはバランスよく配置した

アクション ③アウトプット



<https://www.google.com/maps/d/u/0/edit?mid=1qeTB3CXYQhu20HR6kxo40jATlXdaU18&usp=sharing>

期待する効果

- 今回ペルソナに設定させていただいたIさんに使い勝手のよい情報を提供することでご自身の時間の確保とお子さんの豊かな経験につながる
- 親に**自分の時間ができること**で心の余裕が生まれ、**自分や子どものことをポジティブに考えることができ**、**子どもとの接し方にも好影響が生まれる**
- Iさんに**有益な情報は他のシングルファザーにも役に立つ** 可能性があり、他の地域でも同様な情報提供が広がることでシングルファザーの心の余裕と子どもの経験が増える助けになる
- 取組みが普及しスタンダード化すれば、情報提供者はフォームに悩まずに済み、利用者は地域を移っても馴染んだ形式の情報を利用できる
- 情報を利用したシングルファザー、シングルマザー同志が**つながる契機となり相談相手が増えたり、情報交換が促進される**
- ひとり親家庭だけを対象としないサービス、施設でもひとり親家庭の利用者が増えることでニーズを汲み取るようになり利便性が向上する

まとめ

Iさんからのフィードバック



- この中から知っている施設は3箇所程度
- 自分でも、「子どもの遊び場」などのキーワードで調べていたが……これだけの情報を自分だけで集めるのは絶対無理だなと思う
- 預けられないにしても、マンネリにならないように親子で一緒に行ける場所の情報があるのはありがたい
- パッと施設名だけ目に入るより、どんな施設か説明があると手が届きやすい
- 「こういう視点で集めた」という点（フィルター）があるから良いと感じた

今後のアクション

- 施設リストとマップはIさんにも共有し、今後使ってもらう
- 「ある人のために生み出されたデザインは、似た状況にある他の人々にも役に立つ」という考えのもと、兵庫県のひとり親支援団体にも共有したい

プロジェクトを通じた、メンバーの気づきや感想

- シングルファザーはひとり親の中のマイノリティであり、男性は女性よりコミュニティの形成が不得手な場合も多く、情報収集や相談相手に苦労するなど経済状況とは別の課題を抱え、その影響は子どもにも及ぶと考えられる。
- 男性のシングルファザーの問題がシングルマザーの窮状に対して一般に切実さを欠き、かつ社会がジェンダー規範に捉われることでシングルファザー「孤育て」の固有な問題が見過ごされている。
- アンケート調査など定量的なデータではなく、少数派であるために無意識のうちに取りこぼされてしまった「ひとり」のユーザーから生まれた意見を丁寧に拾い上げながら進められたことに価値があった。

ソーシャルアクションアカデミー2024 活動報告資料について

本資料は、「ソーシャルアクションアカデミー」の参加者である、企業人・NPO職員・学生などのグループが作成した、「ソーシャルアクション」の成果物です。本資料を引用される際は、出典について、以下の例を参考に記載いただきますようお願いいたします。

1. 資料のフッタにコピーライトを表示

【記載例】

©ソーシャルアクションアカデミー

©Social Action Academy

2. 引用箇所の末尾等に資料の出所を表示

【記載例】

資料：ソーシャルアクションアカデミー

資料：ソーシャルアクションアカデミー 2024年度活動報告書より

資料：認定NPO法人サービスグラント『ソーシャルアクションアカデミー』2024年度活動報告書より

お問い合わせ

認定NPO法人 サービスグラント (担当：岡本・柴岡)

SAA@servicegrant.or.jp

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-2-10

〒541-0047 大阪市中央区淡路町2-5-16 淡路町ビル8階

<https://www.servicegrant.or.jp/>

「ソーシャルアクションアカデミー」は、非営利組織とともにリアルな社会課題解決に挑戦する経験と、エキスパートによる講義やフィードバックを通じてビジネススキルを磨くことを両立する機会を提供する、超実践型アクションラーニングプログラムです。認定NPO法人サービスグラントが主催し、企業人、NPO職員、学生など多様なメンバーがグループを組み、協力者の力を得ながら、自発的に企画したアクションに取り組んでいます。